

【基本方針】

堺市内の公共交通ネットワークを担う路線として、市民の利用価値を向上するとともに、都心活性化など、まちづくりと一体となって、阪堺線の再生を図る。

市民等の利用増加を図ることによって、阪堺電軌㈱の経営改善に寄与し、持続的・自立的な阪堺線の運行を実現する。

市が取り組む阪堺線再生策は、阪堺電軌及びグループ企業による主体的な自立策を基本として、相互に役割分担・連携して実施する。

【再生策の主な候補】

（１）利用増加策

堺市内・大阪市内区間の一区間運賃化（２９０円 ２００円）

高齢者利用割引（６５歳以上、全日・堺市内１００円均一化）

綾ノ町～御陵前の短区間割引（１００円均一化）

バスとの乗り継ぎ運賃の引き下げ

団体定期割引の導入（臨海工業地帯の事業所等を対象）

南海本線や南海高野線との共通運賃の復活

年間２億円の赤字解消のためには、大雑把にみて、利用者数を現在の１１５万人／年から、平成９年当時の２３０万人／年程度まで回復させることが必要。

（２）近代化・機能向上

低床車両（ＬＲＶ）の導入

ＩＣカード施設の導入

情報案内サービス（電車の近接、到着時間情報等）

運行スピードアップ（信号調整など）

御陵前以南での停留場新設

（３）営業支援・その他

メディア（堺市広報、情報誌、テレビ番組等）によるＰＲ

割引乗車券等の販売促進

貸切り電車の運行

学校行事等との連携（遠足での利用、阪堺線を題材にした教育活動など）

観光施設等との連携（提携割引券など）

車体広告

関連商品の販売（主要駅での阪堺線関連グッズの販売など）

不動産賃借（ビル等の賃貸など）

シンポジウム、イベント（阪堺線の利用促進などのシンポジウム、沿線での各種イベントなど）

ラッピング車両（車体を活用した広告）

ネーミングライツ（停留場の名称販売）

文化観光拠点の整備

経営効率化

市民活動（市民による基金、応援組織の設立など）

コンセプト車両の導入（和歌山電鉄における「いちご電車」や「おもちゃ電車」のようなもの）